

スクールタクトを使った授業

単元	文字の式	対象学年	1年
ねらい	協働的、主体的に学びに向かい、学びの良さを実感できるようにする。		

1 準備するもの

教師：タブレット端末（教師用）

児童：タブレット端末（児童用）

2 学習のしかた

(1) 導入

「文字の式」の単元の導入として、生徒に描かせたイラストを黒板に貼った時に必要なマグネットの個数を調べる。イラストを貼るとき、イラスト同士の端を重ねるので、マグネットの個数は、「 $4 \times$ イラストの枚数」になるわけではない。例えば、3枚のイラストを並べるときには、8個のマグネットが必要になる。そこで、「クラスの生徒全員がイラストを描き、そのイラストを全部貼ったときのマグネット個数は？」と問いかける。



(2) グループで追究する。

マグネットの個数をグループで考え、タブレット端末にまとめる。グループ毎に、表を使って考える方法、ことばの式を使って考える方法、図をかいて考える方法とさまざまな方法が挙げられることが予想される。タブレット端末にまとめ、活発にグループ内で意見交流をするように指示する。

$$2 \times 32 + 2 = 66$$

イラスト1枚増えるときにマグネット2個増える

イラストの枚数

初めに付いているマグネット2つ

	2から32まであと31			
イラストの枚数	1	2	3	4
マグネットの数	4	6	8	10
	$2 \times 31 = 62$ 最初の4を足す $62 + 4 = 66$			
	ここからもあと31			

$$2 + 2 \times a = y \rightarrow 2 + 2 \times 33 = 68$$

イラストの枚数 $\times 2 + 2$

(3) 全体発表

タブレット端末にまとめた考えを、テレビ画面に映して全体発表をする。どのように求めたのかを図、表、式と対応させて説明をさせたい。

3 学習上の留意点

- ・スクールタクトを使ってグループで考えをまとめると、時間がかかってしまう。今回は数人で一つのタブレット端末にまとめたが、個人で考えをまとめさせて、協同閲覧モードを使って、考えを交流させてはどうかと考えた。
- ・タブレット端末をテレビに移す際に手間取ってしまい、必要以上に時間を取ってしまった。情報機器のトラブルの際には、代替措置を考えておくとよいと感じた。

4 学習の効果

- ・スクールタクトを使って自分の考えをまとめると、子供たちは積極的に授業に参加することができた。考えをまとめる際も、どうしたら相手に伝わりやすいまとめ方になるかということを考えながら分かりやすくまとめることができた。
- ・タブレット端末に自分の考えをまとめる際に、図、ことばの式、表で考えをまとめ、多様な考えを引き出すことができた。
- ・タブレット端末にまとめた考えをテレビ画面に映して発表することで、発表者も発表しやすく聞き手も理解しやすい様子であった。